

2021年1月5日

社長年頭挨拶

日本生命保険相互会社
社長 清水 博

日本生命保険相互会社（社長 清水博）は、年頭挨拶として、社長から全役員・職員に向け、メッセージを送りました。社長からのメッセージの要旨は以下のとおりです。

2021年のスタートにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年来、大きな試練に直面しています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、以前と同じようにお客様にお会いすることが難しく、営業活動と販売業績に影響が出ています。また、世界的に低金利が進み、運用収益の確保に一段の工夫が必要となっています。しかし、日本生命の職員全員が、この試練に怯むことなく、業績の回復や順ぎやの確保など、年度目標の達成に向け、最大限の努力を傾けていただいていますし、全ての部門において変革への取り組みが加速した一年でもありました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に未だ終わりは見えません。現在のように、人同士が会うことに心理的または物理的に制約が課される状況は、創業以来経験してきた数々の厳しさと比べても、質の異なる初めての大きな試練です。しかし、日本生命ならこの試練を乗り越え、また単に乗り越えるだけでなく、さらに発展することができるという確信を私は持っています。

理由は3つあります。1つ目は、人生100年時代がさらに進み、誰もが健康で長生きをしたいと望む社会にあって、安心を提供する生命保険の需要が減ることはないということです。2つ目は、お客様はデジタルを便利に感じる一方で、生命保険の詳しいことや大事なことは会って話したい意向をこれまでどおり強くお持ちであり、Face-to-Faceの重要性は変わらないということです。そして3つ目は、何と云っても日本生命には素晴らしい人材がいるということです。

これまで日本生命は、困難に思える課題にも堂々と挑み、知恵と努力と結束力で課題を乗り越え、多くの目標を達成してきました。今回も、課題を真正面から見据え、困難を乗り越える自らの力を信じ、全員の全力で試練を乗り越えたいと思います。さらに、困難を単に乗り越えるだけでなく、さらなる成長を呼び込むような乗り越え方をしたいと思います。

そのために必要なことは、目の前の課題だけでなく、これまで課題と分かっていたとしても十分な対応ができていない構造課題にも、果敢に切り込み、大胆に手を打つということです。あらゆる部門に構造課題は存在しています。管理職全員にお願いしたいことは、構造課題への対応を先送りせず、新年度から始まる新中期経営計画の3年間で、構造課題に果敢に切り込み、大胆に手を打っていただきたいということです。

また、厳しさを乗り越えるには、現場と本部の一体感をより高めることも重要です。課題と解決策は、お客様やマーケットの最も近くで仕事をしている現場にこそあります。現場が状況や課題を積極的に本部に伝え、本部はそれを受け止めたうえで、現場と本部が一体で対応策を検討することが重要です。また、より良い対応策を見つけるために、現場が試行錯誤や創意工夫を行えるよう、本部がサポートすることも大切です。

4月から始まる新中期経営計画では、コロナ前を超える会社に成ることを目指します。2023年度までの3年間で、販売業績がコロナ前を超えることを目標に置きます。そして販売業績だけではなく、会社全体の収益力や健全性など、あらゆる点でコロナ前を超えることを目指します。日本生命は、いかなる試練も乗り越え、さらに発展することができると思っています。日々お客様のもとにひたむきに向かい、努力を惜しまない皆さんと一緒に懸命に働き、もっと素晴らしい日本生命にしたいと思います。

2021年が、日本生命グループで働く全員にとって、輝かしい一年になるように、気持ちを一つに頑張ってまいりましょう。

以上